

第一回 応用地質フォトコンテストの報告 テーマ「大地と人間活動の関わり」

事業企画委員会

日本応用地質学会では、応用地質学に関する調査研究の推進、技術の進歩普及と会員相互の交流を図り、学術・文化の発展に寄与することを目的としています。今回は、応用＝人間活動の関わり、地質＝大地という観点で「大地と人間活動の関わり」を表現した写真を募集しました。厳正な審査の結果、優秀賞1点（賞金1万円）、入選1点（賞金5千円）が選ばれましたので発表いたします。

- ・応募受付期間：平成28年6月1日～11月30日
- ・応募数：14点

1. 優秀賞作品

- タイトル：「断層谷の秋」
- 撮影者：小笠原 洋
- 撮影場所：広島県山県郡北広島町戸谷鶴木（うずらき）
- 撮影者コメント：ここ鶴木の集落では、50kmを超える筒賀断層の断層谷が一望できます。また断層による湧水が多いのか、たくさんの水田があります。大地の恵みを楽しむ人の営みと絶景を、ここで味わうことができます。



写真-1 断層谷の秋

2. 入選作品

- タイトル：みのり多き地すべり
- 撮影者：橋本 智雄
- 撮影場所：山形県最上郡大蔵村（豊牧地すべり）
- 撮影者コメント：この棚田は地域の人達が古くから地すべりと向き合い暮らしてきた証。今年もまたみのりの時期を迎えました。



写真-2 みのり多き地すべり

優秀賞作品は、清らかな水田地帯が断層谷沿いに遙か遠方まで延々と続いている様を表現した、奥行きのある作品となっていると思います。太古から人々にとっては、深い森の中に点在するオアシスのような土地であったのだと思います。薪の煙が自然との共生をより深く感じさせてくれます。

入選作品は、大規模な地すべり地形を活かした棚田の風景を、自然からの恵みという視線でうまく捉えた作品になっていると思います。対岸の急斜面に点々と残る崩壊の痕跡が、脅威としての地すべりの側面を雄弁に語っており、手前側の恵みの側面とよい対比をなしていると思います。

今回は「大地と人間活動の関わり」を表現した写真を募集しましたが、主に次の視点からの応募が多くありました。

- ・地質に起因する環境問題
- ・人間の生活に密接に関わる特徴的な地形
- ・地下水の利用や地下水に関する諸問題

今回は応募がありませんでしたが、応用地質には次のような視点もあります。

- ・土木工事で遭遇した事象、地質や難題克服等
- ・自然災害やその対策
- ・災害に関わる特徴的な地形

今後も応用地質に関するフォトコンテストを企画していきたいと思います。特に優れた作品は、雑誌の表紙を飾ることになりました。たくさんのご応募をお願いいたします。

(事業企画委員会)